

## 平成 29 年度 第 1 回学校協議会 会議録

1 日 時 平成 29 年 7 月 6 日 (木) 18:00 ~ 19:00

2 場 所 産業高等学校会議室

3 出席者

(1) 学校協議会委員 (50 音順)

産業高等学校元 P T A 会長 池内 美智子

岸和田市立中学校会会長 大畑 明生

産業高等学校 P T A 会長 葉山 隆二

産業高等学校前校長 久井 孝則

※ 欠席委員 杉山 玄道 (産業高等学校 同窓会副会長)

(2) 学校

校 長 楠戸 啓之

全日制教頭(司会) 西村 元博

定時制教頭 榎本 正広

教務部長(首席) 大西 敦子

事務長(記録) 小林 大樹

4 次第

(1) 校長挨拶

(2) 平成 29 年度協議会委員紹介及び会長選出

会長に久井委員を選出

(3) 会長挨拶

(4) 議案

①自己診断における平成 29 年度目標設定について

○大西教務部長

○榎本定時制教頭

(目標設定については、全日制・定時制別でホームページの学校教育自己診断に掲載しています。)

○質疑応答

(委 員) 定時制の状況についてももう少し詳しく教えてほしい。

(事務局) 定時制では小中学校で不登校を経験した生徒の割合が増加しており、昨年度は新入生の 9 割がその経験者。「学校に来る」、「学校行事に参加する」という部分で課題を抱えている生徒が多い中、「学校へ行くのは楽しい」の質問について一昨年度肯定率 48.0%に対し昨年度が 55.6%、「ホームルーム活動、学校行事や生徒会活動に積極的に参加している」の質問については一昨年度肯定率が 46.8%に対し昨年度が 53.2%と数値が伸びてきており、肯定率が過半数を超えたが、今後も工夫を続けたい。

(委 員) 全日制的「3. 相談体制について」とあるが、相談には、どのような方法があるか。

(事務局) 担任や養護教諭など先生に相談、又は教育相談室を直接利用。教育相談はほぼ毎週 1 回の割合で開設している。

- (委員) メールなどを使っても相談できるか。
- (委員) ホームページ開設時、メールアドレスを設定したが、1日に何百件単位のスパムメールが届き、(メールアドレスを)閉じてしまった経緯がある。高校の場合、メールアドレスを開設しているところはほとんどないと聞いている。
- (委員) スクールカウンセラーは毎週来ているのか。
- (事務局) 金曜日を基本とし、ほぼ毎週来校、相談室を開設している。
- (委員) スクールカウンセラーにつなぐ方法は。
- (事務局) 保健室や、担任を通じ予約できる。予約が入ってなければ直接教育相談室に行くことも可能。
- (委員) 全日制の生活指導面で課題になっていることはあるか。
- (事務局) 特に課題ではないが、1年生時において他校と比べて厳しいという意見がある。但し、学年が上がるにつれ、指導への理解度が増している。指導の重要性や必要性は3年間かけて徐々に理解してくれている。先生方には、ルールの必要性を生徒に理解させる指導をお願いしている。

## ②本校の市民講座について(全日制)

### ○西村全日制教頭

- ・産業高校の教員が所有する高い専門性を岸和田市民の方に還元することを目的に、産業高校学務課事業として市民講座を行っている。
  - ・現在実施している講座及び今年度より実施予定講座について説明
    - ワード入門講座(市内在住・在勤者対象 講師:商業科教員)
    - エクセル入門講座(市内在住・在勤者対象 講師:商業科教員)
    - 簿記3級講座(市内在住・在勤者対象 講師:商業科教員)
    - アーチェリー教室(市内在住小学校6年生から中学校3年生を対象 講師:アーチェリー部顧問等)
    - ものづくり体験講座(市内在住小学校4年生から6年生を対象 講師:デザインシステム科教員)
- 今年度より開始の市民講座で7月15日実施予定

### ○質疑応答

- (委員) ものづくり体験講座で、中学生を対象に入れなかったのか。
- (事務局) 小学生の夏休みの宿題につながる取り組みと考えた。
- (委員) 市内の小学校には案内を出しているのか。
- (事務局) 市内全小学校に配布した。
- (委員) 保護者同伴にしなければならないのか。
- (事務局) 作品制作には工具を使うこともあり、安全面を考慮し保護者同伴とした。
- (委員) 児童がチラシを見て興味を持って、それを親に伝えているかが今後の課題。
- (事務局) 今年は初年度であり、今後は工夫しながら認知度を上げていけたらと考えている。

## ③産高定時制通信(定時制)

### ○榎本定時制教頭

定時制に入学する生徒が年々減少し、入学者を増やすための広報の見直しが課題であった。さまざまな取り組みの中、「定時制だより」を作成し公民館に配付した。今後学期に1回程度の発行を考えており、より多くの方に定時制を知っていただけたらと考えている。

(定時制だよりは、定時制ホームページよりご覧ください)

○質疑応答

(委員) 非常によくまとまっていると思う。

(事務局) 今年度ホームページも新しいデザインに変更し、スマホにも対応した。

(委員) 大阪府で定時制課程を持っている学校があるのがいくつあるか。

(事務局) 現在学校数としては18校。

(委員) 商業科があるのは本校だけ。これが本校定時制の特徴。産高に来てワープロやエクセルなどの基礎的なことが定時制で学べることを大々的に広報している。今年の1年生の入学状況は。

(事務局) 27年度の入学者が41名、28年度が40名にとどまっており、危機的な状況になっていたが、今年度は50名の合格者があり、1年生での2クラス体制が実現できた。大阪府全体で定時制は厳しい状況。本校は80名募集で50名合格、府全体の中では、健闘しているところであるが、定員割れを回避することは難しい。

(委員) 入学者の年齢構成はどのようになっているか。

(事務局) 基本的には全日制と同じ15歳からの入学となるが、一旦他校に入学したが環境が合わず再入学してきた生徒も多い。今年度は80歳で入学された生徒もいる。

※次回開催は2学期を予定。